

## 4 地域社会と協働し、子供の学びをつなげたい！

地域の人が園の子供たちに関心を寄せ、関わりをもつきっかけを園が積極的に計画し、温かい助力やちょうどよい支援を得られるよう情報発信や依頼事項を分かりやすく伝える努力を積み重ねることが大切である。そして、地域との協働による学びが、園のカリキュラムに位置づけられ、互いにとって必要な経験内容として根付くことが大切である。

事例

10

### 社会のみんなとのつながりを深め、子供の育ちを共有しよう

- ・地域の取組や仕組みを保育に活かし、連携、協働を仕掛けていく

5歳児 9月 育てたい姿



(ねらい) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり試したりして遊びや生活に取り入れようとする。

(内容) 地域の資源を活かした活動

地域の環境保全会が育てたコスモス畑へ出掛け、コスモスを間近で見たり触れたり、においをかいだり摘んだりする。

サツマイモ収穫後の園の畑に、次に栽培する物をクラスで話し合う中で、「コスモスを育てたい」という意見がでた。本園のこの地区では、休耕している田や畑にコスモスの種をまいて、広大な一面のコスモス畑を愛でてもらおうといった取組が行われている。子供たちにも、風に揺れるコスモスの美しさはすっかりおなじみで、自分の園の畑でも育てたいという意見に、みんなが賛成した。



【コスモス畑】

栽培するには、時期が遅く、担任は迷いながらも、子供たちの思いをかなえたいと一緒に育て方を絵本や図鑑で調べたり、家庭で子供が父親とインターネットで調べた情報を集めたりした。そのうち一人の子供が「サツマイモの時みたいに、「コスモスの先生」に聞いてみればいいじゃん」と言い、聞きたいことをクラスで書き出し始めた。

そこで、コスモス畑に取り組む地域の人に、『コスモスを育てたい子供の熱い思い』や『コスモス栽培を通してのねらいや子供に期待する育ち』について話をし、協力をお願いすると、快く引き受けてくれた。

#### 子供たちの質問

- ・今から種まきして咲きますか？
- ・太陽の光は、いりますか？
- ・どうやって種をまきますか？
- ・トラクターがないけど、どうしたらいいですか？

#### 地域の人への質問タイム



#### 地域の人への応答

- ・おじさんたちの畑は8月に種をまくよ。背が低く咲くんじゃないかな？
- ・水も太陽の光も肥料もいるね
- ・おじさんたちは、トラクターで種まきするよ
- ・みんなの手で種と土をかき混ぜたらいいよ

困ったことがあったら、いつでも相談にのるよ

9月に畑にコスモスの種をまいた。10月下旬になり、「コスモスが寒くてかわいそう」と子供から声があがった。子供たちはコスモスが寒くないようにどうすれば良いかを考え、自分たちの考えた形のビニールハウスを地域の人に手伝ってもらいながら作ることにした。

子供たちはサツマイモを育てた時のマルチ※を思い出し、かまぼこ状にビニールをかける形と、コスモスが生長した時に頭がつかえないように筒状にし、周りを囲うだけの形を考えた。土が固くなっており、ビニールハウスの支柱を立てるのは重労働で「そっち、しっかり持っててね。せーの」と友達と協力しながら立てたり、「コスモスのプロ！ここがなかなか刺さらないんだけど、どうしたらいいですか？」と地域の人に尋ね、木づちで打ってもらったりした。そして、全部被せ終わると「やった！完成！」「大変だったけど、これで大丈夫だね」と喜んだ。

※マルチ  
畑の畝を覆うフィルム状の資材

### 自分たちが考えたビニールハウス作り



作業の後、地域の人が「『コスモスが寒くてかわいそう』だなんて、コスモスの気持ちを自分に置き換えて考えているんだね」

「筒状のビニールハウスにしなくても、コスモスが伸びてハウスにぶつかることはないんだけどね。でも、せっかく子供たちが考えたから、活かしてあげたいもんね」と話された。



この時期の子供たちは、自分が大切に思う対象（ここではコスモス）に対し、自分のことのように感じ、そのことを友達と伝え合うことで、自分たちにできることは何かと考え、行動に移そうとする育ちの姿が見られる。【自立心】

自分たちがやりたいと思ったことの実現を支える保育者の姿勢と同じように、地域の人々も、子供たちの考えを尊重してくれたことに、子供たちに願う育ちを理解してもらえた手応えを感じた。

### ポイント

地域の人との協働で理解を得られた子供の育ちと育てたい姿を確認しながら進める。



地域の人との関わりや子供の取組の過程や様子を写真やイラストを用いて、保育ドキュメンテーションを作成し、園内研修を行った。

その中で、「コスモスを育てたいという思いから、自ら調べたり身近な人に聞いたりして、積極的に動いて分かろうとしている」「自分たちの力で何とかしようと、一生懸命考えている。これは、自立心の育ちではないか」「自分とは違う、友達の意見を聞いて悩んだり考え直したりもしている。思考力の芽生えだと思う」と、子供の姿から捉えたことを伝え合った。

ドキュメンテーションには

- ・園の畑にコスモスの種まきをした後、皆で地域のコスモス畑を見に行き、きれいに咲いていたコスモスを摘ませてもらった様子。
- ・花を園に持ち帰り水に差して飾っていたものの1週間余りで萎れてしまった経験から、再度いただいたコスモスの水を毎日変えたり、絵を描いたり、押し花にしたりしてそれぞれの方法できれいなコスモスを長く楽しめるようにしていた様子。
- ・押し花作りが皆に広まり、いろいろな形や色の台紙に貼ってコースターやしおりを作った様子等、子供たちの思いや取組の経過が伝わるように分かりやすく示した。【コースター、しおり】



### 保護者へ

コスモスの栽培について、家庭でも話題にしてもらえよう、友達と一緒に育て方を調べたり、地域の人アドバイスを受けて、試行錯誤したりしている子供たちの姿や、コスモスを育てようと活動する中で、思いやりのある温かな心が育まれていることを伝えた。

### ポイント

取組の過程と具体的な子供の育ちの姿を保護者や地域の人に明確に示す工夫をする。

ドキュメンテーション「コスモスの栽培から作品作りの過程」



毎年11月に開催される地域の文化展で、子供の作ったコースターやしおりとともに、子供のコスモス栽培の保育ドキュメンテーションを掲示した。

文化展を見に来た地域の人たちは、「コスモス畑のコスモスかね？みんなそれぞれうまいこと作っとるな」「いろいろ考えてやっとるんだなあ。子供ってすごいなあ」「先生、また手伝ってほしいことがあったら、いつでも言ってくれんよ」と、言葉を掛けてくれた。また、文化展を見に行った子供が多く、「知らないおじいちゃんに『きれいだね』って褒めてもらったよ」と、うれしそうに報告してくれた。

地域の文化展

ドキュメンテーション

子供の作品  
コスモスの押し花  
コースター・しおり



直接、子供たちに関わってくれた人だけではなく、保護者も含めて、広く地域の人に、子供たちのコスモスの栽培からコースター作りまでの過程を見てもらうことで、子供たちの思いや発想、それを支える保育者の姿や協力してくれた人々の温かさが伝わった。子供たちにとっても、保護者や地域の人にとっても、認められるうれしさ・役に立つ喜び等、協働して多くのものを得ることができた。

12月、コスモスが満開になり、自分たちの育てたコスモスを使って押し花やコースターを作ることを楽しみにしていたが、思い掛けず雪が降り、コスモスが雪枯れしてしまった。子供たちはとてもがっかりしたが、「きれいな花だけ採って押し花にしよう」というA児の言葉に、他児も「仕方ないもんね」と言って押し花を作った。しかし、落胆した気持ちは晴れない様子だった。



【きれいな花を選んで摘み取る子供たち】



【押し花作りに取り組む】

コスモスが枯れてしまい残念だったが、保育者は地域の人への感謝の気持ちを伝えていきたいと思い、絵本の「ライフ」を読んだ。

※絵本は、「花が大好きだったおじいさんが亡くなって、元気をなくしたおばあさんがいた。でも、おじいさんが育てた花の種をいろんな人がもらっていき育てたので、次の春に町いっぱいには花が咲き誇った。その様子を見て、おばあさんは元気を取り戻した」というお話。

### 絵本「Life ライフ」を読み聞かせると・・・



【採ってきたコスモスの種を集める】

読み終わると、子供たちは、おばあさんはうれしくなって、おじいさんのことを思い出しているのではないかと話していた。そして、自分たちのコスモスも種を採ることができそうということに気付いた。「そうだ！コスモスのプロに種をプレゼントしたら？そしたら、一緒に育てたこととか、思い出してくれるかも」と、さっそく種を採りに行った。



【枯れた花から種を採る】



【コスモスの種は細長い。形状にも関心を寄せる】

### コスモスの種を採りながら 様々な思いを巡らす子供たち

「年中さん（4歳児）もコスモスを育てたいって言うかも」  
「もう一回育てたいよね。小学校のどこだったら種まきできるかな？」  
「小学校の先生に聞いたらいいんじゃない？」と話していた。

#### 子供の育ち

コスモスが雪枯れして落胆した子供たちの気持ちと、絵本「ライフ」のおばあさんの気持ちが重なった。子供たちは、町の人々の優しさや温かい心を感じとり、「自分たちも感謝の気持ちを伝えたい」「一緒に栽培をしたことを覚えていてほしい」「またコスモスを咲かせたい」という思いが再燃した。間接的ではあるが、絵本のストーリーが子供たちの心を揺さぶり、体験が、次の行動へとつながった。自分たちで大切に育てたコスモスの種だからこそ、こうした思いが芽生えた。

#### 地域の人には

自分たちも感謝の  
気持ちを伝えたい

一緒に栽培したことを  
覚えていてほしい

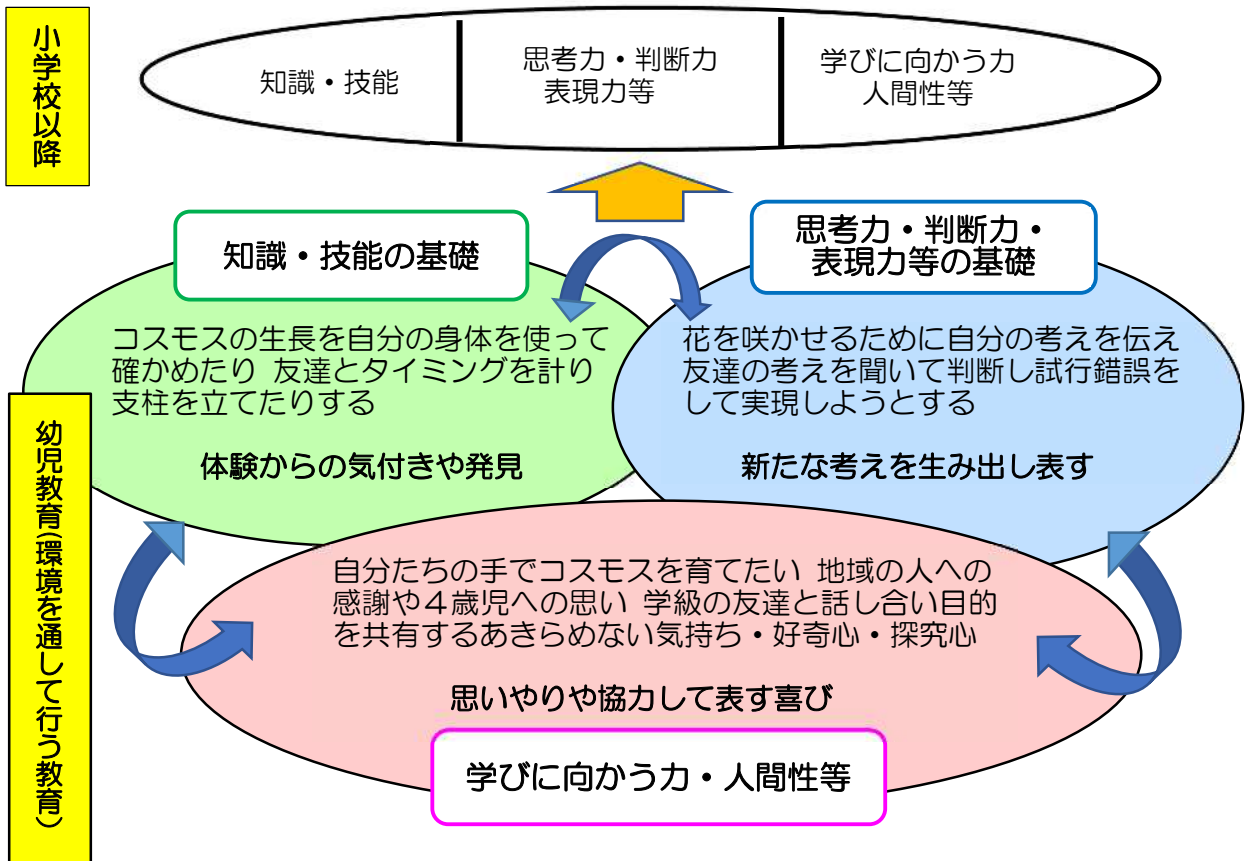


#### 4歳児には

コスモスの種と育て方を  
描いたノートに、思いを  
託して渡す。

また、コスモスを咲かせたい！

園では時期が遅く、雪枯れしてしまっただが、子供の心に芽生えた、“もう一度コスモスを育てたい”という思いを小学校へつなげるために、これまでの過程で育ちつつある姿を三つの資質・能力の視点から捉え直した。



保育ドキュメンテーションを活用して、小学校の教員と意見交換の機会をつくった。育ちの視点で共通理解が得られるように、三つの資質・能力に結び付けて伝えることを意識し、具体的な子供の学びの姿を通して伝えた。

小学校の教員からは、「遊びの中で、小学校教育につながるいろいろな力が育っているということが分かった」「コスモス栽培の経験を、生活科の授業でも活かしていきたい」などの意見が出た。

この後、コスモスの種を持って小学校へ出向き「もう一度コスモスを育てたいので、学校で育ててもいいですか？」と尋ねた。校長先生に「悔しかったんだよね。1年生になったら育てようね」と言ってもらえ、うれしさに目を輝かせた子供は、ポケットから、大切に小袋に入れていた種を出し「お願いします」と渡した。



もう一度コスモスを育てたい思いをつなげる

**ポイント**

子供の育ちを共通理解し、学びにつなげるカリキュラムを小学校教員と共に考える。

## 実践を通しての成果

園の子供・・・ 地域やいろいろな人と直接関わることで、親しみの気持ちが膨らみ、子供なりの地域への愛着が生まれた。

地域の人  
保護者・・・ 子供と直接関わることや保育ドキュメンテーションを通して、幼児理解が深まり、子供たちの心強い応援団となって、成長を共に喜び合うことができた。

保育者・・・ 子供の思いや心情を読み取ろうとする意識が高まり、子供の見方が深まった。遊びの中で、今、している経験からどのような力が育とうとしているのかを資質・能力に関連付けながら捉えるようになってきた。

小学校・・・ 幼児期の終わりまでに育てほしい姿を共有しながら、子供の育ちを幼児期に育みたい資質・能力の視点も意識して分かりやすく伝えたことで、幼児教育が小学校以降の学習の基盤となることへの理解につながった。



### 社会に開かれたカリキュラムの実現に向けて



- 地域の様々な資源を計画的・意図的に活用できるように教育課程に位置づける。
- 子供に育てたい姿（地域の人との関わりや地域の自然環境を利用することを通して、地域の人と子供が互いに親交を深め、次世代の担い手として地域愛や地域の人とのつながりを育てる）を明確にし、職員間で共通理解する。
- 園の保育者は、地域の人的・物的資源や環境を発掘し、発達の時期を捉えて、子供たちにタイミング良く出会わせるコーディネーター的役割を果たす。
- 目で見ても分かりやすい掲示や多様な人に発信する場等、幼児教育の発信の工夫をする。
  - \* 子供の思いの実現のために、必要な情報を積極的に収集し、保育に取り入れ、子供の思いを直接伝える機会をつくる。
  - \* 保護者や地域の人に幼児教育への理解が得られるよう、幼児理解に基づく保育者の願いに沿った関わりと、環境の構成や子供の具体的な姿で示す発信の方法を工夫する。
  - \* 小学校関係者へのアプローチの仕方を工夫する。（園長と校長・保育者と教員・子供と小学校関係者等）